



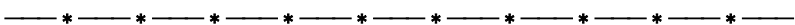
Data

監督：胡玫（フー・メイ）
 出演：周潤發（チョウ・ユンファ）
 / 姚魯（ヤオ・ルー） / 陳建
 斌（チェン・ジエンピン） /
 陸毅（ルー・イー） / 任泉（レ
 ン・チュアン） / 馬精武（マ
 ー・チンウー） / 闕金明（カ
 ン・ジンミン） / 張凱麗（チ
 ヤン・カイリー） / 畢彥君（ピ
 ー・イエンチュン） / 周迅（ジ
 ヨウ・シュン） / 王絵春（ワ
 ン・フィチュン）

👁️👁️ みどころ

孔子が生きた時代はいつ？戦乱の世で孔子はいかなる役割を？儒教や『論語』は日本では高値で安定しているが、さて中国では？始皇帝の映画は多いが、孔子の映画は初！

国相代理にまで上り詰めた後の権力闘争から流浪の旅の中で、孔子はいかなる教えを人々に？孔子が残した数々の「格言」をチェックしながら、混迷したニッポン国の行き先を模索したい。



■□■ 明治天皇の映画は？イエス・キリストの映画は？ ■□■

写真の世界では、日本にはじめてその技術が入ってきた時、「写真を撮られると魂が抜かれる」と言われたらしいが、新しいもの好きの坂本竜馬はそんなことを全然気にせず、新しい技術とお楽しみの世界に積極的にチャレンジしたらしい。

他方映画の世界では、日本は天皇陛下を映画のフィルムにおさめることに、西欧諸国はイエス・キリストを映画のフィルムに収めることに長い間抵抗があったようだ。その結果、明治天皇の姿がスクリーン上に登場したのは『明治天皇と日露大戦争』（57年）で、嵐寛寿郎が初の明治天皇役に。また、私が知る限りでは、高校時代に観た『キング・オブ・キングス』（61年）が、はじめてイエス・キリストの顔を真正面から映し出した映画。チャールトン・ヘストン主演で1959年にアカデミー賞11部門を受賞した『ベン・ハー』（59年）では、イエス・キリストの顔を真正面から見せてもらえず後姿だけだった（？）ため、この『キング・オブ・キングス』で私ははじめてイエス・キリストのご尊顔を拝することに。

■□■始皇帝は？釈迦は？そして孔子は？■□■

前述のように、明治天皇やイエス・キリストを真正面から描いた映画は少ないが、「始皇帝」を描いた映画は『テラコッタ・ウォリアー秦俑』（89年）（『シネマルーム17』135頁参照）、『始皇帝暗殺』（98年）（『シネマルーム5』127頁参照）、『HERO（英雄）』（02年）（『シネマルーム5』134頁参照）や、勝新太郎が始皇帝を演じた『秦・始皇帝』（62年）などたくさんある。他方、釈迦を描いた映画も古くは、勝新太郎の向こうを張るかのように本郷功次郎が釈迦を演じた、日本初の70ミリ超大作『釈迦』（61年）がある。また近時は『リトル・ブッダ』（93年）、『手塚治虫のブッダ 赤い砂漠よ！美しく』（11年）などがある。

これに対して、プレスシートにあるフー・メイ監督のインタビューによっても、孔子を主人公にした映画は今作が初めてらしい。私は2年半中国語を勉強しているが、孔子は至聖、孟子は亜聖といわれている（その意味は、孔子が第1の賢人。孟子は孔子に続く第2の賢人）。このように、中国人俳優にとって最も恐れ多い孔子役に挑んだのが香港、ハリウッドで活躍しているベテラン俳優のチョウ・ユンファ。さあ、世界初の（？）スクリーン上にみる孔子サマとは？



(C) 2009 DADI CENTURY (BEIJING) LIMITED ALL RIGHTS RESERVED

■□■孔子の教えとは？孔家の人々とは？■□■

イエス・キリストは「愛」を説き、「罪なき者、まず石を投げうて」、「だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい」と教えたが、さて孔子の教えとは？孔子が書いた『論語』は、『聖書』と並びと言わないまでも、日本では最も著名な本の1つだし、日本では江戸時代から長く儒教の教えが浸透してきたから、孔子の教えは日本人にはかなりポピュラー。したがって、「四十にして惑わず」の他、「己の欲せざるところ、人に施すなかれ」、「義を見て為ざるは、勇なきなり」、「朝に道を聞かば、夕べに死すとも可なり」などの格言はよく知られているが、さてその定着度は？

他方、中国ではここ数十年の間「一人っ子政策」がとられているが、あなたは孔子の子孫をどれくらい知ってる？孔子が生まれた魯の国の首都は曲阜（きょくふ）で、私は2005年10月20日～24日の山東省クルーズ旅行でここを訪れた。孔子の末裔は全世界に70万人いると言われているが、そのうち約10万人が曲阜に暮らしているというから驚きだ。ちなみに私がこの旅行で出会い名刺交換と記念撮影をした孔祥涛くんは、孔子の75代目の子孫と名乗っていた。その時は半信半疑だった私が「さもありなん」と納得したのは、07年11月4日に『孔家の人々』（92年）を鑑賞したため。この映画の登場人物たちは75代目から79代目まで5代にわたる「孔家の人々」であり、そこで織りなされた人間ドラマはすべて孔子の教えをテーマにしたものだった（『シネマルーム17』200頁参照）。魯の時代に、孔子が君主・定公から中都宰に任命されたのは紀元前（BC）501年だから、今から約2500年前のこと。すると、「孔家の人々」は約2500年間、約80代も続いていることになるわけだ。こりゃすごい！



(C) 2009 DADI CENTURY (BEIJING) LIMITED ALL RIGHTS RESERVED

■□■ 2500年前の交渉術から何を学ぶ？ ■□■

日本では孫子の兵法が有名で、儒教の孔子は兵法や戦争には無縁と思われているが、本作を見れば、それが全く違うことがよくわかる。秦の始皇帝が魏・趙・燕・斉・韓・楚の六国を滅ぼして、中国を統一したのはBC221年だから、本作が描く孔子の年代はそれより約280年前のこと。孔子が生まれたのは魯の国だが、晋・斉・楚という大国に隣接している魯国はいつもビクビク。

映画冒頭、当時の習慣であった奴隷を主君と一緒に埋葬することは是非をめぐる、殉葬の撤廃を主張する孔子と、その存続を主張する季孫斯（チェン・ジェンビン）が、君主・定公（ヤオ・ルー）の前で議論を闘わせる姿が描かれる。これを見ると、2500年前の中国では意外に合理的なシステムで君主の意思決定がされていたことがわかる。さらに、

続く斉国との夾谷（きょうこく）会談に臨む孔子の姿を見ていると、話し合いには武力の裏付けが不可欠と考えていた孔子の考え方と2500年前の交渉術の巧みさを学ぶことができる。つまり、孔子が夾谷会談に成功し、魯の悲願であった汶上（ぶんじょう）三城を取り戻すことができたのは、弟子の顔回（レン・チュアン）や冉求（マー・チンウー）に対して万一のための出兵要請をしていたためだった。戦後66年間、日本国が平和を享受することができたのは結構なことだが、今や日本の安全保障は風前の灯火？2500年前の交渉術から何を学ぶ？

■孔子の真価は、権力闘争に敗れた後に？■

3. 11 東日本大震災の後、5カ月間も続いた「菅下ろし政局」にはうんざりしたが、どの時代でもどの国でも、権力闘争は世の常。本作前半、魯の君主・定公がやけに孔子を引き立てる姿が目についたが、これでは、魯公室の分家であり、政治の実権を握っていた三桓、その中でも最も権力を握っていた季孫斯が快く思わないのは当然だから、その巻き返しは必至。そう思っていると案の定、国相代理にまで上り詰めた孔子が国内の「構造改革」を着々と進める中、三桓の巻き返しが始まったから大変。孔子はついに、定公から決別を言い渡されることに。

小泉純一郎総理の下で日本の構造改革を大胆に押し進めた竹中平蔵氏は、小泉総理と共にタイミングよく政界から身を引くことが出来たが、その改革の成果を引き継ぎ、さらに発展させようとした太田弘子氏は反小泉勢力が巻き返す中、孤立してしまった。しかして、この時の孔子はそれと同じようなもの？それはともかく、定公と決別した孔子は妻の卞官（チャン・カイリー）や娘の孔姣とも別れて1人流浪の旅に出たが、そこで同行を願い出たのが、孔子が最も信頼を寄せる弟子の顔回。まさに「先生が形なら弟子はその影」だ。しかして、映画中盤は孔子が顔回に続く多くの弟子を引き連れて、衛の国や宋の国などを遊説して歩く姿が描かれる。こんな姿を見ていると、まさに孔子の真価は権力闘争に敗れた後に？

■うまくまとめたが、この美女・周迅は余分・・・？■

「己の欲せざるところ、人に施すなかれ」と説いた孔子の思想は儒教だが、紀元前500年当時は戦乱の世だから武力の備えが必要だったうえ、いざ戦争という時にはいかなる兵法で敵を倒すかがどの国にとっても最も大切なこと。したがって、口先だけのきれいな事を説いたのでは、いかに賢者といえども為政者に重んじられないのは当然。そんな視点で本作を観ると、孔子は学問も戦争も両方できた賢人兼戦略家であることが明らかだ。

さらに、①歩いている地面の氷が突如割れ、木簡を積んだ馬車が沈んでしまったため、水の中に沈んでいく木簡を拾い出そうとして凍死してしまった顔回は別として、②魯の国の季孫斯から再び魯国に戻るよう要請された冉求や、③衛国から大夫として招請された子路など、孔子の弟子たちは大いに軍事の才能を発揮していたが、そうなるも戦乱はいつまでも絶えないから、孔子の教えの実践は難しい。イエス・キリストや釈迦の生涯とその教えを1本の映画にまとめるのが難しいのと同じ様に、孔子のそれを1本の映画にまとめる

のは難しい。中国ではテレビドラマでも有名な第五世代監督の一人である女性監督フー・メイの映画は『愛にかける橋』（02年）しか観ていな



(C) 2009 DADI CENTURY (BEIJING) LIMITED ALL RIGHTS RESERVED

いが、私のその採点は星5つ（『シネマルーム5』349頁参照）。そんなフー・メイだから、本作はうまくまとめたなど感心したものの、中国四大女優の一人で私の大好きな周迅が南子役で登場するストーリーは少し中途半端。衛国の君主・衛霊公（ピー・イエンチュン）の妻である南子は、その美女ぶりを駆使して衛の国に孔子を留ませようとするのだが、どうもそのやり方は不自然。本作に周迅のような美女をこんな形で登場させる必要は、必ずしもなかったのでは・・・？

■□■私たちは、孔子の価値を今どこに？■□■

日本では江戸時代から今日まで孔子の価値は「高値」で安定しており、孔子の言行録である『論語』は常にリーダーたちの導きの書とされてきた。そのため、最近の低レベルの大学生は別として、私たち団塊世代の人たちは少なくとも論語の格言を10個くらいは並べられるはず・・・？

ところが本場の中国では、孔子の価値は文化大革命の時代に大暴落し、各地の孔子廟は次々に打ち壊される事態に陥った。そんな中国で2010年末に「孔子平和賞」なるものが創設され、1回目の受賞者として台湾の連戦元副総統が選ばれたが、さてその真意は・・・？賞金を10万元（約120万円）とする同賞の候補として、今年プーチン・ロシア首相ら8名が挙げられ、今年も昨年と同様ノーベル平和賞授賞式前日の12月9日に授賞式が予定されていたが、去る9月30日付読売新聞は、北京の学者などで作る団体が昨年末に創設した「孔子平和賞」が文化省の管理規定に違反したとして、2回目の今年には中止に追い込まれたことを報じた。同賞をめぐるのは「国際的な尊敬も得られず、孔子の名を汚すだけだ」などと批判が出ていたらしいから、イメージ悪化を懸念する当局の意向が働いた可能性もあるとのことだが、さてその真意は？

映画は、長年の流浪の旅を経てやっと故郷の魯国へ戻ることが許された孔子の姿を描いて終わる。73歳で孔子が死亡したのはBC479年のこと。それから約2500年後の、政治も経済も社会も混乱しているニッポン国で私たちは孔子の価値を今どこに？

2011（平成23）年10月6日記